



孫子の兵法

(彼を知り、己を知れば、百戦殆からず)

4月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022年4月11日(月)

孫子の兵法の著者は二人いるという。

一人は、「孔子」とほぼ同じ時代の「孫武」、もう一人はそれから約100年後、「孟子」と同じころの戦国中期に活躍した「孫臏」である。

1972年7月山東省で発掘されたか墓から、「孫子兵法」とともに「孫臏兵法」の竹簡が現れ二人の「孫子」が活躍したことが解った。

「孫臏」は、戦国の雄「齊の威王(前356-320在位)」に仕えた軍師である。齊は建国以来800年、現在の山東省に栄えた強国であった。

華北平野に隣接する齊、韓、魏、趙は、微妙な対立をしていた。

中でも、齊と当時の最強国魏が死闘した「桂陵之戦」と「馬陵之戦」は世紀の対決であった。

「趙の首都邯鄲」が魏から攻撃を受け、趙から齊に救済の要請があった。

齊の威王は要請を受け入れ、「將軍田忌」と「軍師孫臏」に出陣を命じた。田忌が、魏に包囲された邯鄲救援に向おうとするのを孫臏が止めて言った。

「邯鄲に向うのは止めましょう、今なら、魏の全軍が邯鄲に集結して、留守になっている魏の首都大梁の方を攻めましょう。」

邯鄲と大梁の間は数百キロも離れていたが、首都大梁の齊軍の攻撃の報に接し、邯鄲の魏軍はやむなく大梁へ向けて引き返した。それを大梁付近の

「桂陵」で待ち受けていた齊軍が、邯鄲攻撃で疲れていた魏軍を大破した。

後日、孫臏は「魏がそのまま邯鄲を攻めておれば、実力に勝る魏軍は確実に攻め勝つことが出来たでしょう。そして邯鄲戦勝の後に、その勢いで大梁へ攻め寄せれば、我々齊軍も勝つことは出来なかったでしょう。」と言ったという。戦いは正に落着きと深謀遠慮が大事ということだ。

その13年後の「馬陵之戦」においても孫臏の計により、將軍田忌は魏の軍勢を谷間に誘い込み、魏軍を潰走させ、それまで戦国の雄と言われた魏はそれ以後、戦国の競争から脱落した。

戦争は、他のどんな社会現象にもまして、見通しを立てにくいものだ。

つまり、その動きは、必然的であるというよりむしろ蓋然性に支配される点が多い。

しかし、その戦争も人間の思い及ばぬ神秘的なものではなく、それなりの法則性を持つ社会現象である。従って、孫子の「彼を知り、己を知れば百戦殆からず」という命題は、やはり科学的な真理と言える。

孙子兵法的作者据说有两位。

一位是，与孔子同时代，春秋时期的「孙武」，

另外一位是与孟子同时代，战国中期的「孙臆」。

1972年7月，在山东省古墓中发现了《孙子兵法》和《孙臆兵法》的竹简。

「孙臆」是战国七雄之一齐威王的军师。

孙臆任于齐时，齐已建国500年，即现在的山东省。

公元前4世纪，在中原地区，魏、赵、韩、齐等互相对立常常起纠纷。

其中，齐和魏的对立最为激烈。

两国之间发生「桂陵之战」和「马陵之战」在历史上非常有名。

这两场战争改变了战国时代的走势起到了一种关键作用。

在「桂陵之战」中魏国攻击赵国的首都「邯郸」，赵国请救援齐国。

齐威王接侯要请出兵，命「将军田忌」和「军师孙臆」出击。正在将军田忌向邯郸救援时，孙臆对

田忌说，「不要去，魏军集结在邯郸，我们去攻击魏国的首都「大梁」」。

邯郸和大梁之间距离数百公里，接到齐军攻击大梁的消息，魏军从邯郸向大梁返回，齐军埋伏于等待在大梁附近的「桂陵」，以逸待劳打败了。

13年以后，在「马陵之战」中也使用孙臆的计略，田忌将军把魏军诱入山谷，打败魏军。这以后，战国前期最强大的魏国渐渐凋落了。

在战争中很难预料将来的情况。

这个不是由必然

而是偶然性决定的。

但是，有法则的社会状态，

所以，孙子说的「知己知彼，百战不殆」的命题是，可以说是科学性的真理。